



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 マーベラスAQL

コード番号 7844 URL <http://www.maql.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 許田 周一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理統括本部長

(氏名) 山角 信行

TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	12,143	93.9	1,715	248.0	1,673	255.8	1,386	△43.6
24年3月期第3四半期	6,263	8.7	492	20.3	470	29.0	2,456	593.4

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 1,387百万円 (△43.6%) 24年3月期第3四半期 2,458百万円 (591.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	2,592.93	—
24年3月期第3四半期	9,448.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	14,333	10,166	70.9	19,018.64
24年3月期	13,667	9,102	66.6	17,028.50

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 10,166百万円 24年3月期 9,102百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	605.00	605.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	1,000.00	1,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	63.1	2,200	110.6	2,150	109.7	1,750	△50.5	3,273.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.4「サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	535,931 株	24年3月期	535,931 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	1,380 株	24年3月期	1,380 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	534,551 株	24年3月期3Q	260,017 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「1. (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7
(6) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、平成23年10月1日付で当社を存続会社とした吸収合併方式により、株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアと合併いたしました。また、合併に伴い、報告セグメントも「オンライン事業」「コンシューマ事業」「音楽映像事業」の3事業に変更いたしました。

したがって、前年同期との比較において前提条件が大きく異なることから比較数値は表示しておりません。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループが属するエンターテインメント業界は、国内ソーシャルゲームの市場規模が成長を続けており、平成24年度は前年度比137%の3,870億円、平成25年度は同110%の4,256億円と成長率は鈍化するものの、今後も拡大基調が予測されています(株式会社矢野経済研究所調べ)。また、家庭用ゲーム市場につきましては、平成24年のハードが前年対比99%の1,779億円、ソフトが同98%の2,712億円、合計で同98%の4,491億円となり、ハード・ソフトともに、特にニンテンドー3DSの販売が好調に推移しました(株式会社エンターブレイン調べ)。また、音楽・映像分野では、コンサートなどの様子を収録した音楽関連の映像ソフトが好調だったこと等が寄与し、平成24年に発売された音楽ソフトパッケージの総生産金額が前年対比110%の3,108億円となり、平成21年以来となる3,000億円台に回復しました(日本レコード協会調べ)。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPを中核としたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日～平成24年12月31日)の業績は、売上高12,143百万円、営業利益1,715百万円、経常利益1,673百万円、四半期純利益1,386百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①オンライン事業

当事業におきましては、平成24年5月よりサービスを開始した「一騎当千バーストファイト」が好調に売上を伸ばし、平成24年11月サービス開始の「閃乱カグラ NewWave」も順調な立ち上がりを見せました。一方で、スーパークリエイターズシリーズをはじめとした一部不採算タイトルの中止に伴う費用を計上したほか、新規タイトルの開発期間延長等により、当初予定していたタイトルのリリースに遅れが生じました。しかしながら、「ブラウザ三国志」、「ブラウザプロ野球」、「剣と魔法のログレス」等の既存主力タイトルが引き続き好調に推移し、収益に貢献しました。

これらの結果、売上高は5,276百万円、セグメント利益は632百万円となりました。

②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成24年7月に発売した「ルーンファクトリー4(ニンテンドー3DS)」及び平成24年8月に発売した「閃乱カグラ Burst-紅蓮の少女達-(ニンテンドー3DS)」が、それぞれ好調なセールスを記録し、前期(平成24年2月)に発売した「牧場物語 はじまりの大地(ニンテンドー3DS)」のリピート受注等も好調に推移しました。受託開発部門におきましても、ソニー・コンピュータ・エンタテインメントの「SOUL SACRIFICE(PS Vita)」の受託開発が順調に進捗しました。アミューズメント部門につきましては、平成24年7月に稼働を開始したキッズアミューズメント筐体「ポケモンレッタ」の好調な稼働が継続しました。

これらの結果、売上高は4,463百万円、セグメント利益は1,196百万円となりました。

③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、テレビアニメ「スマイルプリキュア！」や「映画プリキュアオールスターズNewStage みらいのともだち」等の主力シリーズの音楽・映像商品が大きな収益貢献となり、音楽配信収入や旧作商品の受注も堅調に推移しました。ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計95公演分の実績を計上したほか、関連DVDの販売も好調に推移しました。また、人気ゲームを原作とした「ミュージカル『薄桜鬼』 斎藤 一 篇」や前期における公演で好評を博した「VISUALIVE『ペルソナ4』」の第2弾公演を開催し、観客動員も順調に推移しました。

これらの結果、売上高は2,403百万円、セグメント利益は538百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産14,333百万円（前連結会計年度末比665百万円増）、負債4,166百万円（前連結会計年度末比397百万円減）、純資産10,166百万円（前連結会計年度末比1,063百万円増）となりました。

（流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は11,828百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円減少いたしました。主な変動要因は、たな卸資産の増加427百万円、現金及び預金の減少527百万円等であります。

（固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は2,505百万円となり、前連結会計年度末に比べ770百万円増加いたしました。主な変動要因は、新たな設備投資による有形固定資産の増加343百万円、開発タイトルの増加に伴う無形固定資産の増加467百万円等であります。

（流動負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は4,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ263百万円減少いたしました。主な変動要因は、未払法人税等264百万円増加、短期借入金の返済による減少539百万円等であります。

（固定負債）

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は68百万円となり、前連結会計年度末に比べ134百万円減少いたしました。主な変動要因は、長期借入金の返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替による減少146百万円等であります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10,166百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,063百万円増加いたしました。主な変動要因は、四半期純利益の累積が前連結会計年度末の配当による剰余金の減少を上回った結果であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

売上高につきましては、オンライン事業のタイトルの一部において、リリース時期の見直しや品質向上のための開発期間延長により、サービス開始が遅延したことが主な要因となり、当初計画から減少となる見込みであります。一方、利益面につきましては、サービス開始延期に伴う初期コスト及び経費の減少等により、営業利益、経常利益ともに前回発表数値は確保できる見込みとなっております。また、繰延税金資産の計上等により、当期純利益は、前回発表数値を上回る見込みとなっております。

詳細につきましては、平成25年2月8日に公表いたしました「繰延税金資産の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したMAQL Europe Limitedを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ23,615千円増加しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,179,272	6,652,270
受取手形及び売掛金	2,520,681	2,660,692
有価証券	280,371	43,297
たな卸資産	904,939	1,332,809
その他	1,070,421	1,183,979
貸倒引当金	△23,193	△45,001
流動資産合計	11,932,492	11,828,047
固定資産		
有形固定資産	332,698	676,275
無形固定資産	733,400	1,200,928
投資その他の資産	764,162	728,439
貸倒引当金	△95,561	△100,638
固定資産合計	1,734,699	2,505,005
資産合計	13,667,191	14,333,053
負債の部		
流動負債		
買掛金	609,087	767,974
短期借入金	1,107,491	568,280
1年内返済予定の長期借入金	73,200	146,400
未払印税	934,294	827,353
未払法人税等	33,663	298,450
引当金	74,265	20,795
その他	1,529,652	1,469,321
流動負債合計	4,361,653	4,098,575
固定負債		
長期借入金	202,400	56,000
資産除去債務	—	12,040
その他	538	5
固定負債合計	202,938	68,045
負債合計	4,564,592	4,166,621
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	6,373,514	6,373,514
利益剰余金	1,630,975	2,693,626
自己株式	△27,726	△27,726
株主資本合計	9,105,236	10,167,887
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	298	16
為替換算調整勘定	△2,935	△1,471
その他の包括利益累計額合計	△2,637	△1,455
純資産合計	9,102,599	10,166,431
負債純資産合計	13,667,191	14,333,053

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	6,263,415	12,143,897
売上原価	3,769,948	6,221,182
売上総利益	2,493,466	5,922,714
販売費及び一般管理費	2,000,511	4,207,184
営業利益	492,955	1,715,530
営業外収益		
受取利息	3,214	4,229
為替差益	68	28,423
その他	7,121	2,966
営業外収益合計	10,404	35,619
営業外費用		
支払利息	26,155	9,973
持分法による投資損失	5,920	67,139
その他	1,056	969
営業外費用合計	33,132	78,081
経常利益	470,227	1,673,067
特別利益		
負ののれん発生益	2,208,869	—
特別利益合計	2,208,869	—
特別損失		
関係会社株式売却損	3,103	—
賃貸借契約解約損	76,616	—
会員権評価損	2,600	—
特別損失合計	82,320	—
税金等調整前四半期純利益	2,596,776	1,673,067
法人税等	140,039	287,013
少数株主損益調整前四半期純利益	2,456,737	1,386,054
少数株主利益	—	—
四半期純利益	2,456,737	1,386,054
少数株主利益	—	—
少数株主損益調整前四半期純利益	2,456,737	1,386,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	143	△282
為替換算調整勘定	2,392	3,174
持分法適用会社に対する持分相当額	△277	△1,710
その他の包括利益合計	2,258	1,181
四半期包括利益	2,458,995	1,387,236
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,458,995	1,387,236
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額(注) 2
	オンライン事業	コンシューマ事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,754,496	2,174,680	2,334,238	6,263,415	—	6,263,415
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	90	90	△90	—
計	1,754,496	2,174,680	2,334,328	6,263,505	△90	6,263,415
セグメント利益	114,367	403,532	453,522	971,422	△478,467	492,955

(注) 1 セグメント利益の調整額△478,467千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「オンライン事業」及び「コンシューマ事業」のセグメントにおいて、平成23年10月1日付の株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアとの合併により負ののれんを認識しました。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、前第3四半期連結累計期間においては2,208,869千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,276,417	4,463,815	2,403,664	12,143,897	—	12,143,897
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	1,525	1,525	△1,525	—
計	5,276,417	4,463,815	2,405,189	12,145,422	△1,525	12,143,897
セグメント利益	632,773	1,196,424	538,638	2,367,837	△652,307	1,715,530

(注) 1 セグメント利益の調整額△652,307千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「オンライン事業」で128千円、「コンシューマ事業」で22,777千円、「音楽映像事業」で0千円増加し、報告セグメントに帰属しないセグメント利益の調整額が、708千円減少いたしました。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。